

青山地区市政懇談会 議事録

- 1 日 時 令和4年10月16日(日)
午後4時00分～午後5時25分
- 2 場 所 青山公民館 大会議室
- 3 参加者 青山地区 22人
市 24人(市長、副市長、副市長、教育長、総合政策部長、総務部長、市民生活部長、健康福祉部長、産業振興部長、都市整備部長、上下水道部長、議会事務局長、消防長、教育総務部長、教育振興部長、秘書広報課長、縁結び課主幹、市民協働課長、福祉課長、健康増進課長、医療保険課長、都市政策課長、プロジェクト推進課長、学校教育課長)
オブザーバー 6人
傍聴者 6人

4 内 容

(1) 地区からの意見・提言及び市からの回答
別紙のとおり

(2) 意見交換

ア 青山地区及び周辺エリアの将来ビジョンについて

【青山地区】

青山地区は文教のまちとして誇りを持ってきたが、緑が丘東幼稚園の閉園も決まり、三木北高校の統廃合も決まったことに危機感を持っている。青山7丁目や工業団地の開発もあるが、それだけでなく青山全体を含む、東部エリアのまちづくりについてのビジョンを示していただきたい。

【市 長】

まず、三木北高校については、県立高校であり、県が定めることではあるが、市として、すでにあらゆることを想定し検討を進めている。また、青山7丁目については、現在、造成工事に取り掛かっている。造成工事の遅れにより、当初の約束の完成時期からは遅れることについて、大変申し訳ないが、ぜひご理解いただきたい。

【青山地区】

青山地区では高校が無くなる可能性が高く、昼間人口の減少や、子どもの声が聞けなくなる。また、緑が丘地区では生涯活躍のまち推進機構のみどりんが無くなり、さんさんギャラリーも廃止されるようで、地域全体に影響が出ると考える。その中で、やはり総合的なビジョンを市が示すことを検討していただきたい。

【市長】

市の総合的なビジョンについては、すでに総合計画等において示している。その内容については、市のみで検討するものではなく、市民の皆様と議論して、示していかなければならないと考える。

また、さんさんギャラリーについて、現状、利用者が減少しており、また、緑が丘町公民館や他の公民館においても、展示スペースに空きがある。そのような状況の中で、さんさんギャラリーの利用は一部青山、自由が丘地区の方も利用しているが、大多数が緑が丘地区の方である。市全体における公平性や市の将来などを考え、丁寧に説明を行い、進めていくのでご理解いただきたい。

【青山地区】

様々な理由があり、行政の施設等が無くなっていくのは理解している。ただ、その無くなったものをカバーすることも必要と考える。その点について、検討していただきたい。

【市長】

学校跡地については、県が結論を出された後の話になるが、市として、あらゆることを想定し対応する。さんさんギャラリーのように、税金によって借り入れた民間施設を、再度税金で新たに対応することは難しいと考えるので、ご理解いただきたい。

【副市長】

青山7丁目について、今後、基本構想を策定する。その中で、地域の皆様から様々な意見を聞き、構想を策定していきたく考えている。その際、地域からの要望にある、地域を活性化するための施設など、基本構想の中で検討していくのでご理解いただきたい。

【青山地区】

ホームページ上に掲載されている現構想と今後の構想の違いはあるか。

【総合政策部長】

現在、ホームページ上の構想は概略を示している。具体的な計画については、今後進めていく。青山7丁目を核にして、ライフサイクルに合わせたまちづくり、住み慣れたまちで、ずっと住み続けることができる仕組みを作りたいと考えている。この仕組み作りの検討に時間を要している。今後、皆様にお伝えできることは、伝えていきたいと考えている。これは、青山地区だけでなく、緑が丘地区も含め住み続けることができるまちづくりを進めているので、ご理解いただきたい。

【青山地区】

昨年、青山7丁目について、大和ハウス工業と行政と住民との3者での会議の開催を依頼したが、実施されていない。また、大和ハウス工業の事業計画等がある中で、行政の特養の部分だけが先行しているように感じる。青山地区では、まだまだ要介護3以上の人は少ない状況であり、実際に利用するような状況になった場合には、入所することができないと考える。そういうことも含め、公式に3者が意見交換できる場を設けていただきたい。

【縁結び課主幹】

青山7丁目の件について、昨年12月、本年1月に住民の皆様を対象に住民説明会を実施した。大和ハウス工業、行政がそれぞれの役割を担いながら、このまちの将来のため、今何をすべきかを考え、7、8月の役員会で説明を行い、住民の皆様には現状を知っていただくため、8月に全戸回覧を行った。しかしながら、まだ十分に伝わっていないようであるので、今後も提供できる情報については、まずは役員会に情報提供し、そして住民の皆様にも提供していきたく考えているのでご理解いただきたい。

【副市長】

特別養護老人ホームについては、三木市全体を3つのエリア、東部、西部、南部地区に分けて考えている。青山地区は

南部地区に属し、志染、緑が丘、自由が丘も南部に属している。この南部には現在、特養は1カ所しかなく、介護保険事業計画において、もう1カ所設置することとなっている。青山地区にその1カ所ができるが、それは青山地区の住民を対象とした施設ではなく、南部地区の住民のための施設であることをご理解いただきたい。

イ 青山地区におけるデジタル化の推進について

【青山地区】

回覧物等の見直しについて、相当議論を行い、改善していただいた。しかし、まだまだ資料等について、紙媒体が多い。昨今のスマート化が進む中で、まだまだ自治会において進んでいないことから提案した。また、小中学生は、各自タブレットが配付されている中、青山公民館の改修工事等でWi-Fiを完備する予定があるのか教えていただきたい。

【教育総務部長】

現在、青山公民館の改修にてWi-Fiを完備する予定はない。しかし、各公民館に今後Wi-Fiが必要であると認識しており、今年度、検討していきたいと考えている。

【青山地区】

地域のデジタル化について、各自治体において急速に広がり、他市の状況を見ながら検討を進めるとの回答だが、市の具体的な検討内容を教えていただきたい。

【総合政策部長】

市としてのデジタル化については、国で進める自宅から各種申請ができる、つまり役所に行かずに各種申請ができるようになるデジタル化を中心に進めている。その中でマイナンバーカードが本人確認のためにも必要であり、その普及に取り組んでいる。ご提案のあった地域の回覧物については、市から一方的にデジタル化を進めることは困難であり、自治会でどう取り組むかということになると考える。また、まだまだデジタルに不慣れな方もおり、その方たちが情報を得られなくなってしまうはいけない。今後、そういう問題を含め、協議を進めていかなければならないと考えている。

【青山地区】

自治会において、今後、地域サービスを考えていかなければならない。そのため現在、回覧物を調査している。青山地区全体について、資料のサイズ、カラーコピー、それらを仕分ける手間賃、郵送料などを計算している。これらの業務を地区で行う地域サービスについて、経費の2割を支援していただけるか。また、市内の他地区において、デジタル化を検討している地区はあるか。

【市民協働課長】

他地区の取り組みとして、自由が丘地区でLINEによる回覧を実施している。地区の方全員がLINEを利用している訳ではないので、苦勞する部分もあると聞いている。また、国のアンケートによると、デジタル化に取り組む自治会では、現在、メール、LINEによる連絡が大多数であり、アプリを導入している自治会は少数である。市民協働課においても、LINEで回覧する方法や、その他アプリなど、自治会での情報共有ツールの情報を集めている。今後、そういった情報を共有し、一緒に進めていきたいと考えている。また、先ほどご提案のあった地域サービスなど、地域の先進的な取り組みについては、何らかの支援を考えていきたい。

【市長】

地域の先進的な取り組みについては、理解している。それに対する支援も必要であるが、市として、青山地区だけでなく、全地区として考えているので、三木市区長協議会連合会などでも議論していただきたい。

ウ 出産、育児に係る市のサポート体制について

【青山地区】

まず意見として、大きな公園にはかご付きのブランコがあるが、小さい公園にはブランコや小さい子どもたちの遊具がない。小さな公園付近には、在宅の子どももいますので、遊具整備をお願いする意見があることを伝える。次に、出産、子育てについて、三木市には産科がなく、産科確保が難しいことも理解している。だからこそ、子育て中の親が集い、話せる場所が必要であると考え。青山地区ではまちづくり協

議会のメンバーは子育てについても積極的に取り組んでいる。この取り組みは市と協力して活動していきたいと考えている。そこで廃園となる緑が丘東幼稚園をまち協が、子育ての活動をするコミュニティの場として利用することは可能か。また、青山地区から市役所は遠いので、青山地区の中にそういう場があれば、子育て中の親にとって便利だと考える。

【市長】

地区からのコミュニティの場についてのご提案に感謝する。コミュニティの場としては、青山公民館もある。また、今後の話になるが、青山7丁目の開発において、大和ハウス工業との協議の中で、ご提案の施設を盛り込むことも考えられる。また、青山地区から市役所が遠いという意見について、マイナンバーカードを活用し、キャッシュレス化を推進し、市役所に来なくてもいい行政を目指している。

【教育振興部長】

緑が丘東幼稚園の跡地活用については、現在、未定である。地域のコミュニティの場として緑が丘東幼稚園がいいとの提案も含め、今後検討していく。

【青山地区】

市民の意見として、このまちがさびれてしまうのではと不安がある。消滅可能性都市から脱却したとおっしゃるが、市長としてどのように市を盛り上げていくと考えているのか。東京都の豊島区では、同じく消滅可能性都市からの脱却のため、スマートシティ化、サテライトオフィスの誘致などとともに、子育てしやすいまちづくりのため、子育て世帯の女性の意見を行政が取り入れている。三木市においても、子育て世帯の意見を取り入れる仕組みになっているのか不安に感じる。

【市長】

私は、ピンチはチャンスだと考えている。さびれたまちになるとの不安を抱えておられるようだが、さびれたまちにはさせない。そういう思いで市政を進めている。豊島区の例をだしていただいた。市の施策は、人口規模や予算など、地域によって異なる。例えば、神戸市と三木市が同じことはできない。やはり地域にみあった事業を実施しなくてはならない

と考えている。高校再編においても、子どもが減少している中ではあるが、存続の要望を行った。しかしながら県は、子どもの教育環境を考慮し、統合やむなしとの判断をした。三木市においても、小中学校の統廃合を実施した。地域のことを考えると、統廃合はしたくないが、様々な立場の方の意見を聞き、子どもたちの教育環境を考え、実施した。私の意見やビジョンが聞きたいなど、希望があればいつでも説明に伺う。

エ 高校生の外来医療について

【青山地区】

入院の無償化は、公費助成後の自己負担分が無償ということか。

【健康福祉部長】

その通りである。

【青山地区】

福祉医療制度について、2020年時点で、県内41市町のうち、36市町が中学生まで、12市町が高校生等までの通院、入院を無償としており、それから2年を経過しているので、更なる広がりを見せようと考えている。三木市において、高校生の入院費の助成を優先した施策について、住民の感覚と期待から少しずれがあるように感じる。経済的な困窮な状況にあっても、子どもが安心して学習するための奨学金制度は素晴らしいものであるが、三木市の子育て施策の中で、18歳までの子どもの医療費の窓口負担を無償にさせていただき、安心して子どもを産み育てる社会にし、少子化に歯止めをかけ、子育てに手厚いサポートがあるまちとして、住民に寄り添った施策を実施していただきたい。

【市長】

高校生等の通院の無償化については、各市において、どうすべきか様々な意見を聞きながら進めている。少子化対策についても、三木市では一般不妊治療助成は北播磨で三木市のみ実施しており、また特定不妊治療費助成も一番多く助成している。また、幼稚園等に係る費用について、0～2歳児は50%軽減とし、所得制限を設けず実施している。様々な政

策の中から、どれを優先すべきかを考えている。その中で、まずは高校生の入院費の無償化を実施した。三木市で実施している施策をPRをするとともに、今後どういう施策が良いか検討していくのでご理解いただきたい。

オ 敬老会お祝い金等の見直しについて

【青山地区】

今回、健全化計画において、敬老祝金の見直しがなされ、来年以降、77歳になられる方等がもらえない。来年、お祝いしていただけると考えていた方にとっては、非常にさみしく感じる。青山地区の高齢者は、小学校や幼稚園に行き、昔遊びをしたり、さつまいもや花を植えたり、様々な活動をしている。そのような中で、健全化計画による削減でなく、77歳の方等に対し、従来通り祝い金を出していただきたい。

【市長】

私の政治信条として、これまで、この国を支えていただいた高齢者や戦没者は非常に大事にしなければならないと考えている。三木市では、各地域での戦没者追悼式は続けている。その中で、77歳等の祝金の見直しについては、平均寿命が80歳を超えていることや時代背景等から考えた。また、ある地域の方からは、高齢者を大切にす気持ちも理解するが、少子化対策にもっと力を入れるべきだとの声も聞く。総合的に市民の皆様の意見を聞き、進めていくのでご理解いただきたい。

【副市長】

敬老会の開催補助金の趣旨は、高齢者の方の外出支援や地域の皆様との交流である。現在、開催できず、記念品をお渡ししている状況を、本来の趣旨に戻すべきという観点からの見直しである。今後も皆様に説明を行い、ご理解を得てから実施したいと考えている。

【教育長】

老人会の皆様には、昔遊びや花植えなどたくさん支援いただき、感謝している。老人会は学校教育になくてはならない組織であると考えている。今後、緑が丘中学校にコミュニティスクールの導入を検討している。これは、地域の皆様にお

世話になりながら、地域に根差した学校を作りたいと考えている。については、地域の皆様のお力添えが必要であり、老人会の皆様には、引き続き、支援を賜りますようお願いする。